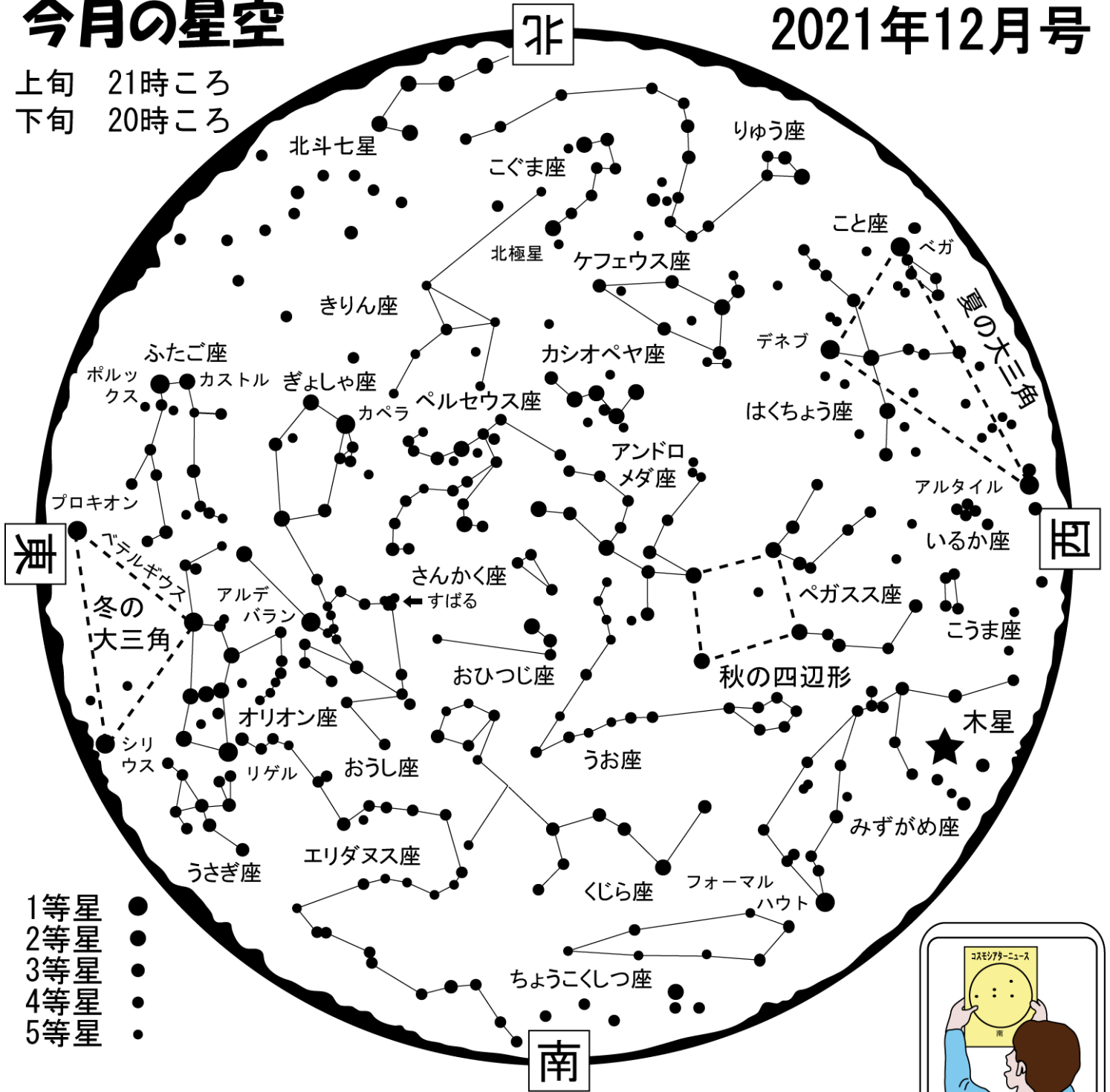


# コスモシアターニュース

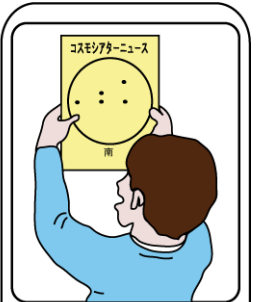
## 今月の星空

2021年12月号

上旬 21時ころ  
下旬 20時ころ



水星：月末以降の夕方、南西のたいへん低い空に見えます。明るさは、0～1等星です。  
金星：夕方、南西の低い空に見えます。明るさは-4.5等星です。7日に月と並んで輝きます。  
火星：見かけ上太陽に近く、見つけるのは難しいでしょう。  
木星：宵の南西の空に見えます。明るさは-2.5等星です。  
土星：夕方の南西の空に見えます。明るさは0.5等星です。



自分の向いている方向を下にして、見てください

### 今月の月の満ち欠け

新月：4日(土)    上弦：11日(土)    満月：19日(日)    下弦：27日(月)

## 7日(火)、夕方、南西の空で、月と金星並んで輝く

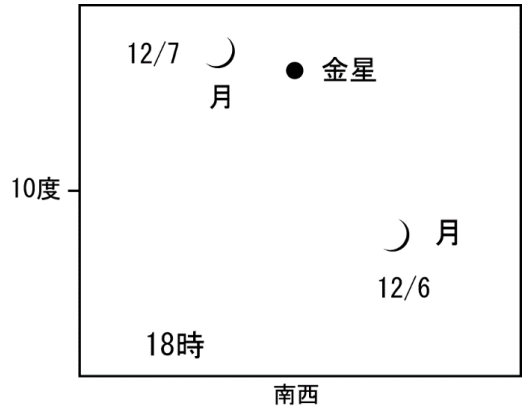
7日(火)、空が暗くなり始める18時ころ、南西の低い空に三日月が輝いています。そして、この三日月のすぐ右に輝くのが、金星です。大変明るい金星と、三日月が並んだ姿は、大変美しいものです。

月や金星が明るいので、夕焼けが明るい17時30分ころから楽しめるでしょう。

ところで、前日の6日(月)も月と金星を見ることができます。ただし、月の高さが低いので、見晴らしのいいところでご覧ください。月は金星の右下に輝きます。

月と金星の姿は、肉眼で見ることができます。気軽に楽しむことができます。また、双眼鏡があればより詳しく見ることができます。

双眼鏡は、5倍程度の倍率低いものが対象をとらえやすく、観察しやすいでしょう。



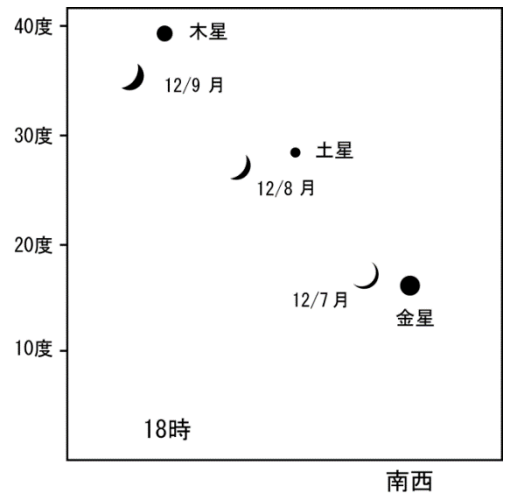
## 8日(水)～9日(木)、南西の空で、月と土星、木星が並んで輝く

8日(水)の18時ころ、三日月より少し太めの月が、南西の空に輝いています。この月の右側に見える星が、土星です。土星は1等星より明るいので、肉眼でもすぐに見つかるでしょう。

そして、9日(木)になると、月は土星の左上に移動し、木星と並んで輝きます。この日は、木星が月のすぐ右上に輝きます。木星は大変明るく、目立つ存在になるでしょう。

このように、月は8日から9日にかけて、土星、木星と並んでかがやきます。また前日の7日から見ると、金星を含め、三日連続で惑星との接近が見られます。天気がよければ、ぜひ連続でご覧ください。

惑星の明るさは、金星が一番明るく、木星がその次に明るく輝きます。そして土星となりますが、土星は普通の1等星程度で、金星や木星ほどは目立ちません。



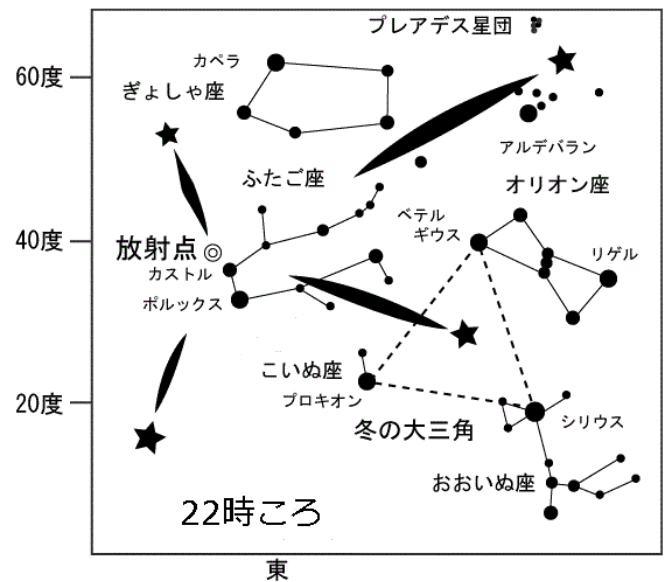
## 14日(火)、ふたご座流星群が極大となる

流星群の流星は、地球から見ると、ある地点から放射状に流れるように見えます。その流れ出す地点(放射点(ほうしやてん))のある場所をとって、何々座流星群と呼びます。今回はふたご座流星群ですので、ふたご座の方向から全天に流れていきます。

ふたご座流星群は、ほぼ一晩中見られ、見やすい流星群となっています。今年の極大は、14日(火)の16時ころに予想がでています。よって、14日(火)の深夜～15日(水)の明け方が多く見えるでしょう。

14日の夜は、満月前の明るい月が輝き条件はあまりよくありません。このため、15日明け方にかけて、実際に見える数は、郊外ですと、1時間あたり20個程度。松山市内では、空が明るくなるので、半分から1/3程度に減少しますが、たくさんの流れ星が見られるでしょう。なお、月が沈む15日明け方が、最も多く見られます。

見る方向は、真夜中まではおおよそ東の空、真夜中以降は南の空を見れば良いでしょう。ちなみに、極大前の13日(月)の深夜から14日の明け方もある程度の流星が見られるでしょう。



## 月末の夕方、金星と水星が並んで輝く

夕方南西の低い空に金星が輝きます。金星の見える場所は、月末になると、急激に低くなります。そして、1月になると、見かけ太陽に近くなり見えなくなります。そんな金星に、水星が接近し、並んだ姿が見られます。接近するのは、28日(火)ころからで、金星の左下に水星が見えます。その後、30日には金星と水星の高さがほぼ同じになり、右に金星、左に水星と水平に並びます。さらに、31日以降は金星の高さが低くなり、この接近は終わります。金星が大変明るいので、金星を目印に探してください。この方向には、水星より明るい星はないので、金星の近くに星が見えたら、その星が水星になります。なお、見やすい時間は17時40分から18時ころの短時間の南西の低い空です。